



中国日本商会

今どきコラムー96

中国雑談

### 中国におけるイノベーションの強み

北京大学国家発展研究院院長の姚洋教授が 2020 年 12 月 4 日、深圳で講演を行い、内容は非常に面白く、以下抄訳しておく。

中国の今後の経済成長は科学技術イノベーションに依るところがより大きくなる。そのスピードを維持できるか否かが鍵を握る。

現在の中国にとって、イノベーションの鍵は二つあり、それは資金と人材である。この二つの面において、中国は今のところ優勢となっている。

資金面では、中国の貯蓄率は、いままでの 50% 超から現在の 45% にまで低下しているものの、依然として高水準を維持している。今後 20~30 年かけて 35% にまで下がるかもしれないが、それでも依然として非常に高い水準だろう。

こうした貯蓄によって、中国は初めて科学技術研究・開発に投入する資金が得られる。中国の資金投入の現状を見ると、R&D（研究開発）投資は国内総生産（GDP）の 2.2%、2 兆 2000 万元を占めている。この額はおよそ米国の 3 分の 2 で、世界第 2 位にランクされ、第 3 位の日本の投資総額は中国の半分に過ぎない。

人的資源の面で言うと、中国では毎年 800 万人の大卒者が生まれている。これは大変な数であり、十年もすれば欧州の大国の人口に相当するようになる。

イノベーションの面において、中国は他国にはない以下のような独自の強みを持っている。

第一に、中国は超大型国家である。イノベーションの面において反映されるのは、大国



には大市場があることで、絶対的なメリットはイノベーションのコストが容易に希薄化できることである。また、イノベーションには巨大な投資が必要だが、小国には困難でも、中国には可能である。中国のインターネット企業の発展がこれほどまでに速いのは、巨大市場がイノベーションコスト希薄化を容易にしているからというのが主な理由である。

もう一つの大国に関連する強みは、整った産業システムである。中国は国連の産業分類目録にあるすべてのジャンルを擁している唯一の国である。深圳を例に挙げよう。深圳は短ければ20年、長くても30年で、米国のシリコンバレーに替わって世界のイノベーションセンターになる。深圳の製造の強みはシリコンバレーにはないもので、深圳である製品モデルを作ろうとすると、数日で出来上がり、ひいては数日で大規模生産を開始できる。これは大多数の国には全く不可能なことであり、米国においてさえほぼ不可能である。

日本企業（中国）研究院 執行院長

[chenyan5931@163.com](mailto:chenyan5931@163.com)